

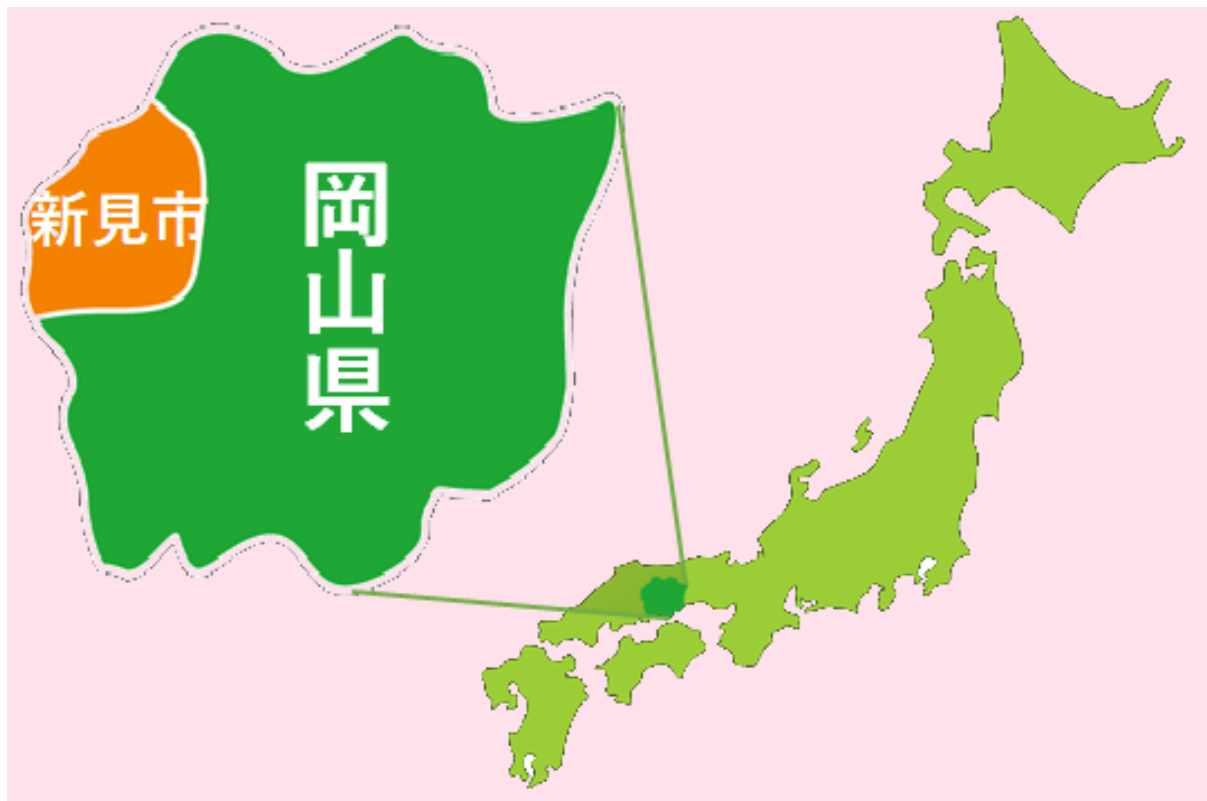
【第3分科会介護関連施設関連】  
シンポジウム4 新見医師会

医師会立老人保健施設「くろかみ」と  
新見医師会の地域包括ケアシステムの  
取り組み



岡山県医師会理事  
新見医師会会長  
太田隆正

新見市は岡山県の北西部  
に位置し、典型的な中山  
間地域である



面積 793.27km<sup>2</sup>  
(岡山県第2位の面積)  
人口 26,894人  
高齢化率 43.2%  
(2023年3月31日現在)

# 石灰産業

長い歴史と、採掘、加工に豊富な技術を持つ

瀬戸内海沿岸の製鉄をはじめ、各種工業製品製造に活用されている



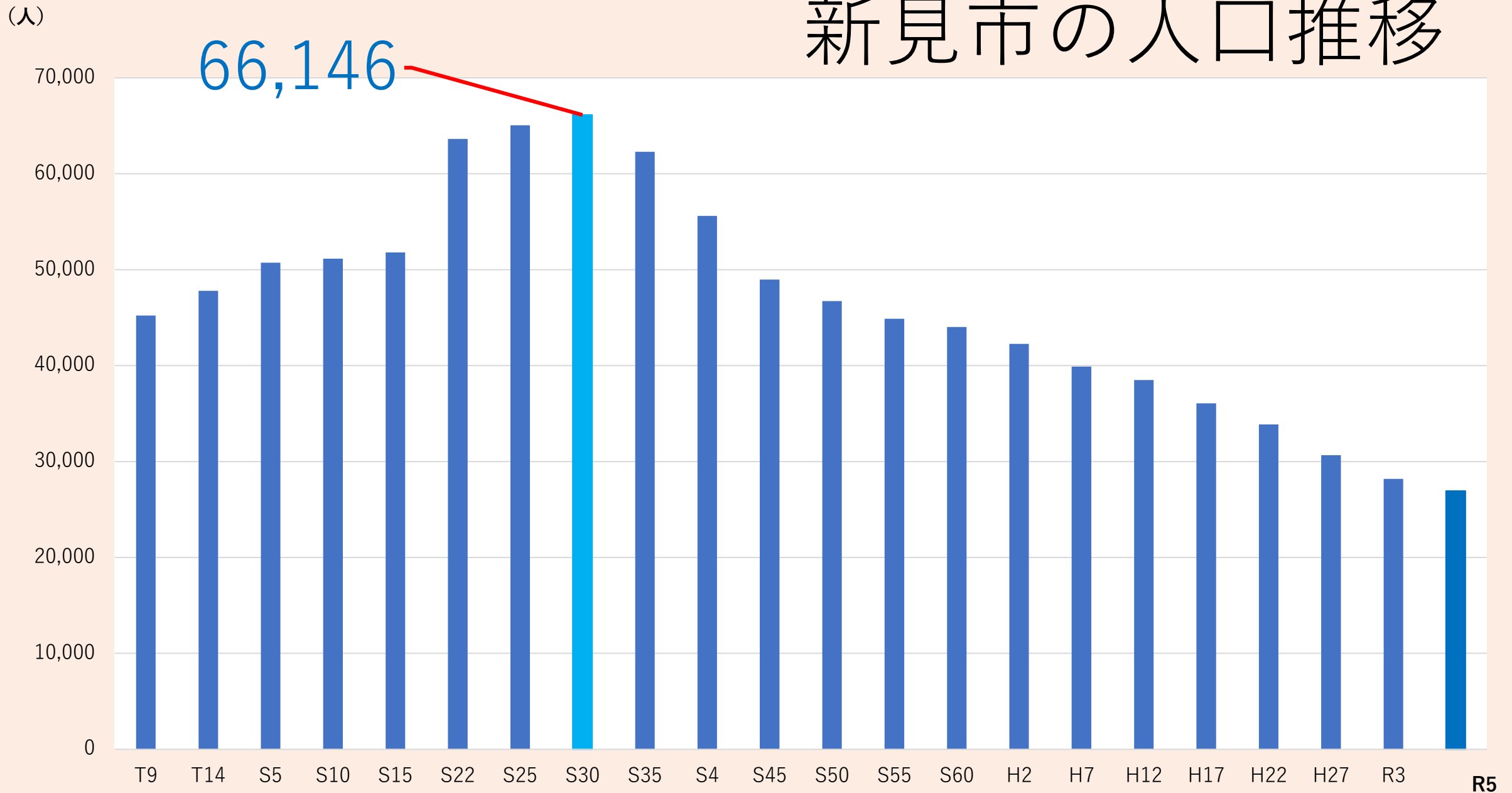
# 1次産業

もも、ピオーネ、千屋牛、生キャビア等

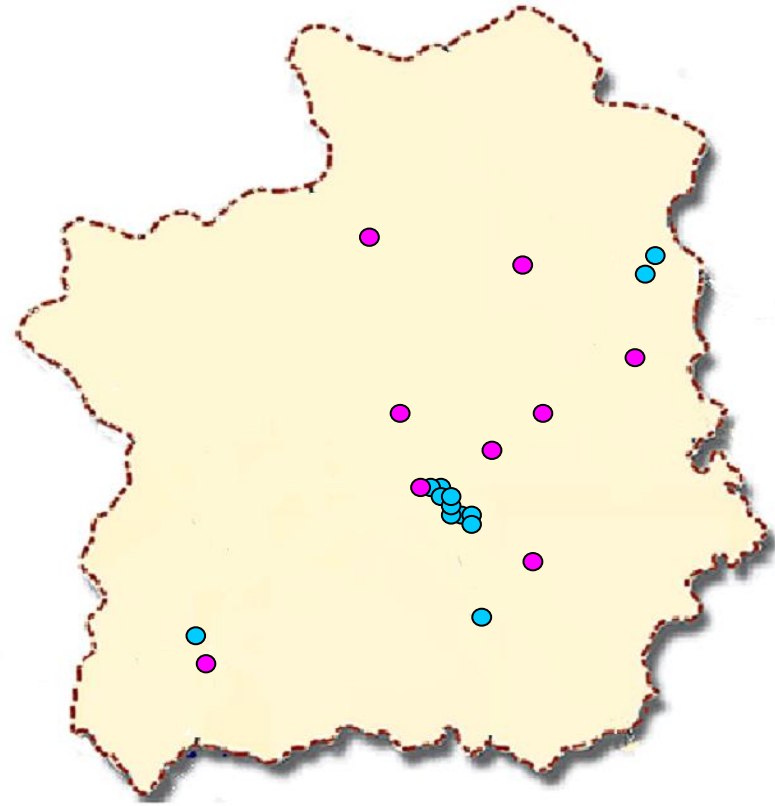
優れた生産技術力を誇り、高付加価値産品

高い評価を得ており、市場等においても人気

# 新見市の人口推移



# 新見市おもな医療機関および介護施設



南北約50km  
車で約2時間

- 医療機関
- 介護施設

東西約50km  
車で約2時間



# 新見市のおもな医療機関・介護施設および事業所数

令和5年7月31日現在

名称	数	名称	数
病院	4	介護老人福祉施設	5
診療所	20	介護老人保健施設	2
歯科医院	11	グループホーム	8
保険調剤薬局	10	小規模多機能居宅介護	5
訪問看護ステーション	3	通所介護	9
居宅介護支援事業所	11		
訪問介護事業所	8	地域包括支援センター	1

## 新見地区医療・介護問題点

- 移動も難しい中山間地で、県下2番目の広い面積
- 人口減少、少子高齢化で、老々介護、独居高齢者、限界集落の増加する地域。
- 医師不足（病院医師不足、高齢化、専門医不足。開業医新規開業なし、高齢化）
- 看護師不足（看護師不足、高齢化。施設看護師、行政看護師も不足）
- その他の医療従事者、介護職員も不足。

# 新見医師会立老人保健施設「くろかみ」開設経緯

- 平成7年11月 新見医師会で老健建設を理事会決定
- 平成7年12月 建設準備室設置
- 平成8年 1月 建設準備委員会で運営基本方針決定  
事業費10億円資金調達を計画  
旧新見市・阿哲4町支援お願い

**平成10年 4月 開設**



# 老人保健施設「くろかみ」の開設

平成10年4月 老人保健施設  
「くろかみ」を開設。新見市委  
託在宅介護支援センター、訪問  
看護ステーション併設。

新見医師会事務、休日診療所な  
ど医師会機能を集約。

開設時

入所定員100名、通所定員30名



# 介護老人保健施設「くろかみ」現状

平成12年4月 介護保険制度移行により、名称を介護老人保健施設「くろかみ」、くろかみ介護支援センター・訪問看護ステーションくろかみに、名称変更。

平成28年8月 通所リハビリを定員30名から40名に増員。

平成28年10月 訪問リハビリテーション「くろかみ」を開始。

地域医療機関より紹介入所、悪化時も4病院への入院もスムーズに行うことが出来ている。新見市からの補助もあり比較的安定した経営が出来ている。今後も、地域の介護重要施設として運営して行く。

# 今後の問題点

## **1. 職員の人材確保**

- ・ 看護師の高齢化・人材不足
- ・ 介護士・その他職種の人材不足
- ・ 地域の慢性的人口減少

## **2. 施設24年経過による維持・管理**

- ・ ベット更新・エレベーター耐震化対応など

## **3. 今後の介護報酬対策**

## **4. 新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策**

# 地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**  
 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。**

## 地域包括ケアシステムの姿



# 新見地区で行った国・県のモデル事業

総務省地域ICT利活用構築事業

(平成20年度-平成23年度)

厚生労働省在宅医療連携拠点事業

(平成24年度)

岡山県在宅医療連携拠点事業

(平成25年度平成26年度)

厚生労働省認知症初期集中支援モデル事業

(平成25年度)



- 平成20-23年度総務省地域ICT利活用モデル事業では、在宅患者のテレビ電話実証実験を行った。地域のICTの可能性を検討した。
- 平成24年度に厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」（全国105か所、岡山県1か所）を受託、国の方針通り新見医師会内に在宅連携拠点「まんさく」開設、職員を配置した。医療機関・介護施設および新見市と調整、連携を行った。「新見地域医療介護施設一覧」作成、在宅医療介護多職種連携ツール「新見版情報共書」の普及、各団体研修会、住民研修会の開催を行った。
- 平成25-26年度まで岡山県事業で継続された。
- 厚生労働省老健局認知症モデル事業「認知症初期集中支援チーム」にも平成25年度受託され（全国14か所、岡山県1か所）事業を開始して、現在も事業継続している。

# 新見市の地域包括ケアシステムの現状

- モデル事業が終了した平成26年3月、新見医師会から新見市に事業主体が変更となり、新見医師会は市より委託され、**在宅医療・介護連携支援センター「まんさく」**（以下「まんさく」）として活動行う事になった。
- 平成28年8月、**第1回新見市在宅医療・介護連携推進協議会**が再編され、医師会、新見市、備北保健所、「まんさく」、新見地域医療ネットワークメンバーなどが参加して活動方針を決定していく組織となる。
- 「まんさく」は、今まで通り「在宅医療連携ガイド」「新見地域事業所料金・加算一覧」「新見地域年間会議等一覧」の作成・管理、地域の医療・介護関係者の多職種連携会議・人材育成研修会を開催するなど、医療・介護の連携拠点の役割を担っている。

新見地域医療ネットワークは、病院職員、各職能団体、行政職員、消防職員等代表者で構成する団体で、2007年より活動開始したが、新見在宅医療・介護連携協議会にも参加、介護職への出前講座、入退院ルール作成、医療介護連絡帳の活用促進、新見版情報提供書の作成など独自の取り組みを行っている。



- 地域包括ケアシステムを支える中核機関は**地域包括支援センター**であり、中山間地域の市町村では多くの自治体で直接運営されている。多くの職種が配置され、業務内容も多岐にわたるが、住民のニーズに質・量でも不十分な事が多い。地域のネットワークのサポートも必要の事もある。
- 前述の認知症初期集中支援推進事業は地域包括支援センター事業として継続しており、認知症サポート医2名、介護福祉士3名、看護師1名、保健師3名でチーム構成、令和4年度は、新規事業数6例で対応している。

## 新見公立大学との連携

- 新見公立大学は、市内医療機関実習、各種会議への参加など以前よりあったが、公文裕巳学長が地域包括ケアの重要性から、2019年従来の3学部を再編、健康科学部3学科（看護学科・地域福祉科・健康保育学科）に改組されるとともに、全国初の看護学科に訪問看護コースを開設された。また、この地域で弱点となっている、小児医療・精神科医療・高齢者医療などに地域の専門職指導に貢献しただき地域包括ケアシステムに参加していただいている。
- 平成26年より新見医師会新規加入した溝尾妙子医師が新見公立大学と連携、「PIONEプロジェクト」として、地域の問題点をテーマに講演会を年1回開催、また看護職・介護職対象の研修会も年数回行っている。

# 新見 PIONEプロジェクト

2014年4月

新見公立大学  
地域共生推進センター

サテライトオフィス  
PIONE

新見市行政

医師会

看護協会

介護福祉士会

地域医療ネットワーク



# MUSCAT プロジェクト

岡山大学  
ダイバーシティ推進センター  
キャリアセンターMUSCAT



住民と医療者、医療者同士が**お互い理解し合える場**



# PIONEシンポジウム

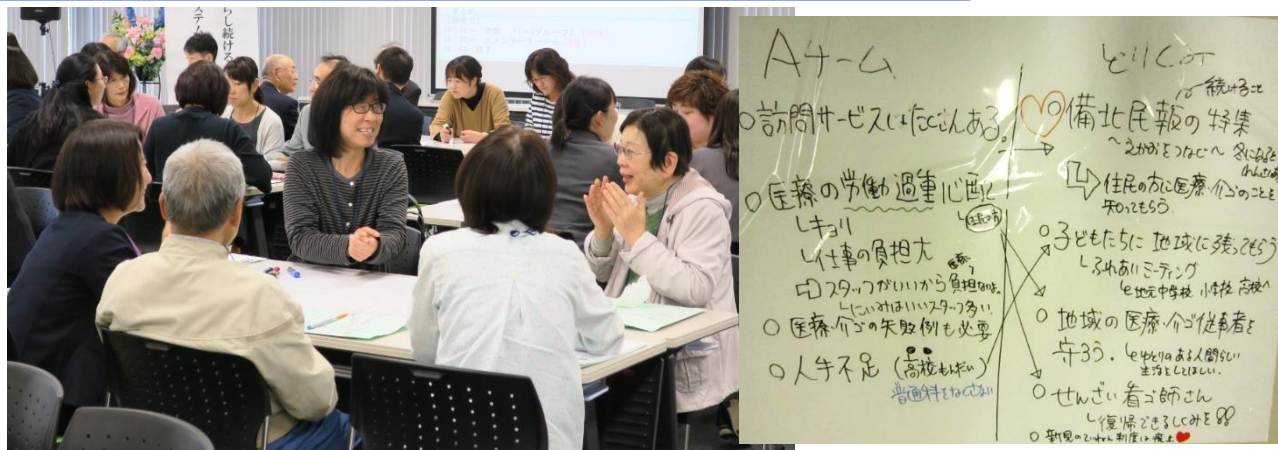
## パネルディスカッション



パネリスト  
新見市内の医療人と**住民**



## 医療者、地域住民とグループワーク



**4回開催**

**医療者と住民  
約100名参加**



## 岡山県医師会との連携

- 岡山県医師会では、松山正春会長が就任時より「移動会長室事業」を展開、会長自ら県下各地域の出向き住民に対し、「ACP」「運動」「栄養」などをテーマに研修会を開催している。
- 新見でも3年前4回研修会を行っていたのだが、久しぶりに本年6月「ACP」テーマに開催、9月にはテーマ「栄養」で開催予定である。



## 医師会の地域包括ケアシステムの係り

- 多職種や住民研修会の積極性参加
- 地域のケア会議など参加して適切な助言

## 医師会と行政連携

- 毎月行っている在宅医療システム研究会。多職種と新見市の市民課・介護保険課・健康づくり課の3部門が参加
- 毎年行われる地域包括支援センター運営協議会での助言提言
- 長期計画となる福祉計画策定会議や介護計画策定会議での助言提言

## 【まとめ】

- 介護老人保健施設「くろかみ」は、今後も引き続き住民のニーズに対応した良質なサービス提供を行っていききたい。
- 新見地区の地域包括ケアシステムは決してまだ充分ではないが新見医師会が中心となって、地域全体で取り組んで行く。
- 今後の課題は住民参加である。新見市と連携して方策を検討していく。



ご清聴ありがとうございました

